

新しい避難カタチ

森本・富樫断層を震源とする地震が起こると、野々市市では震度6強を記録する恐れがあり、想定避難者数は2500人にも上ります。また、ゲリラ豪雨や大型台風がいつ私たちを襲うかわかりません。コロナ禍の今、「もしもの時」に備えて何ができるでしょうか。



ローリングストックのすすめ

避難所には災害に備えた物資が備蓄してありますが、その量には限りがあります。また、家庭によって必要な物資も異なります。自宅避難でも避難所へ行くにしても、必要なものは事前に準備が必要です。とは言え、備蓄の必要性を感じていても、非常食の賞味期限の管理や過不足の確認など、備蓄を維持していくのは難しいもの。そこでお勧めしたいのがローリングストックです。

ローリングストックとは？

普段からレトルト食品や缶詰などを買っておき、使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を備蓄する考え方です。日常生活で消費と購入を繰り返すことで、備蓄品の鮮度を保ち、災害時でも日常生活に近い食生活を送ることができます。



備蓄品（例）

食事

- ☐ 飲料水（1人1日3ℓ以上）
- ☐ 食品（おにぎりやパンなどの主食、缶詰やレトルト食品などの副菜を準備）

生活用品

- ☐ 携帯・スマートフォン充電器
- ☐ タオル ☐ ティッシュ
- ☐ マウスウォッシュ
- ☐ ウエットティッシュ
- ☐ 衣類 ☐ ボディペーパー
- ☐ ゴミ袋 ☐ 非常用トイレ
- ☐ ラップ ☐ 使い捨て食器
- ☐ 常備薬 ☐ 応急用品

必要に応じて備蓄するもの

- ☐ ベビー用品（ミルク・ほ乳瓶・紙おむつなど）
- ☐ 介護用品 ☐ 生理用品

非常時持ち出し品

- ☐ 懐中電灯 ☐ 電池 ☐ 現金
- ☐ 通帳・ハンコ
- ☐ 持病のある人は処方薬

感染症対策品

- ☐ マスク ☐ 消毒液・石けん
- ☐ 体温計 ☐ 人数分のタオル
- ☐ 内履き（スリッパなど）
- ☐ 防寒着 ☐ ビニール手袋

Q&A

Q. 備蓄品はどのくらい用意したらいいの？

A. 最低でも3日分！

災害発生後72時間の最優先事項は人命救助です。公的機関は生存者の捜索を優先して行うため、支援が始まるまでの期間（＝3日間）を自力で過ごすための備蓄が最低限必要です。

自宅避難という選択

「災害が起きたらとりあえず避難所！」と考えてはいませんか？避難所は、自宅などが危険な人を受け入れる場所です。スペースも限られているため、多くの人が

密集すると感染症のリスクが高まります。避難とは「難」を「避」けること。自宅が安全な場合は無理に避難所に向かわず、自宅避難というのも一つの選択です。

不安な時は迷わず避難所へ！

自宅避難について紹介してきましたが、これらはあくまで「自宅が安全な場合」の選択肢です。地震で自宅倒壊の恐れがあったり一人での生活が不安だった時には、迷わず指定の避難所に避難してください。市でも避難所の感染症対策を進めていますが、避難者一人一人の行動も重要です。避難時には感染予防の物品を忘れずに持参してください。

コロナ禍の災害で一番怖いのは「感染症を恐れて避難しないこと」です。安全が確保できない恐れがあるときは迷わず避難所へ避難しましょう。

災害時避難場所の確認はこちら→



新型コロナウイルス感染症対策 避難所運営訓練実施！



10月10日（土）、「新型コロナウイルス感染症対策避難所マニュアル」に基づく避難所開設訓練を実施し、防災士や避難所担当者など40人が参加。検温や消毒の徹底に加え、感染症予防エリアと居住エリアのゾーニングや十分な身体的距離を確保した居住スペースの設置など、感染症対策を講じた避難所開設手順を確認しました。

自宅の安全を確保する

自宅での避難を考える時には、自宅とその周辺にどんな災害リスクがあるのかわかることが大切です。災害時に慌てることのないよう、事前に危険度チェックや家の中の安全確保をしましょう。

◆洪水ハザードマップ



今いる場所の浸水想定をスマートフォンで簡単に調べられる「WEB版洪水ハザードマップ」を公開しています。また、令和2年5月に全戸配布した洪水ハザードマップはホームページでも確認できます。日ごろからチェックし、災害に備えましょう。

WEB版洪水ハザードマップはこちら→



建物倒壊を未然に防ぐ！

過去の地震による建物倒壊などの被害は、昭和56年5月以前の住まい（旧耐震基準の住宅）に多く生じています。これらの住まいについて、耐震診断や耐震改修の補助を実施しています。耐震改修は、定額150万円という全国的にも手厚い補助金があります。ぜひ検討ください。



危険なブロック塀はありませんか？

地震でブロック塀が倒壊すると、人的被害や避難・救助活動の支障となる恐れがあります。日頃から安全点検を行い、危険なブロック塀を無くしましょう。また、市はブロック塀を除却して生け垣などを設置する工事に補助金を交付しています。こちらも活用ください。



問 建築住宅課 ☎ 227 - 6087

災害時の情報収集

災害時のスムーズな情報収集のために、事前登録などをしておきましょう。

ほっとHOTメール ののいち

市からのお知らせや防災情報、交通・防犯情報などを配信する登録制メールです。登録は、上記二次元バーコードを読み取るか、下記メールアドレスへ空メールを送信してください。

☑ nonoichi@entry.mail-dpt.jp

Yahoo! 防災速報

地域の災害情報などをスマートフォンアプリで知れます。

防災行政無線

市内28カ所のスピーカーから緊急地震速報や避難情報を放送します。放送内容は、防災行政無線情報ダイヤル(☎246-1000)でも確認できます。

えふえむ・エヌ・ワン(76.3MHz) 緊急割り込み放送

災害時には通常のラジオ放送を停止し、市がFM電波を利用した緊急放送を行います。

結 ネット

地域の情報を受け取ることができるスマートフォンアプリ。町内会の電子回覧板としての使用やイベントの出欠連絡、災害時は安否確認システムとして機能します。

県河川総合情報システム

雨量・水位などを調べることができます。

エリア・緊急速報メール

災害情報・避難情報など、緊急度の高い情報が特定エリア内の携帯電話・スマートフォンに一斉配信されます。

北陸電力送配電スマホアプリ 停電情報お知らせサービス

設定した地域(最大12地域)の停電情報や復旧見込み時刻などをプッシュ通知でお知らせします。

市総合防災訓練

11月8日(日) 午前8時から

午前8時に防災行政無線やほっとHOTメール、Yahoo!防災アプリなどで訓練開始をお知らせしますので、各家庭でシェイクアウト訓練(しゃがむ、隠れる、じっとする)を実施してください。また、自宅の安全点検や非常用持ち出し袋などの避難準備も併せて行いましょう。171伝言ダイヤル※¹(およびWEB171)も使えます。

訓練後は、家庭でできる災害対策や災害時の行動、避難の方法などについて話し合ってみてください。

※拠点避難所での訓練は中止しますが、町内会で訓練を実施する場合があります

※1 171伝言ダイヤルとは

災害時の通信増加で電話がつながりにくくなった場合に提供される、電話を用いた音声伝言板システム。WEB171(<https://www.web171.jp>)は、インターネット上で171伝言ダイヤルに登録された音声の確認や、テキストでの伝言登録が可能。

「171」をダイヤルし、音声ガイダンスに従って伝言を録音・再生

防災クイズにチャレンジ!

11月1日(日)から防災クイズを公開しました。クイズにチャレンジし、防災について考えてみましょう!



<https://www.city.nonoichi.lg.jp/soshiki/7/25798.html>

あなたとあなたの大切な人を守る 地域防災

災害が起こってしまった時、救助はどのように行われるのでしょうか。阪神淡路大震災では、救助された被災者の約77%が近隣住民などに助けられており、消防や警察・自衛隊に救出された人は約23%と、地域防災の重要性が浮き彫りとなりました。とは言え、地域の力にも限りがあります。地域の力を最大限生かすには、迅速な安否確認が必要です。どこで誰が助けを求めているかを把握する手段や、自分が助けを求める方法を知っておきましょう。

無事を知らせる黄色いタオル

多くの町内会では、災害が起こった際に無事を知らせる黄色いタオルを玄関先に掲げる事を推奨しています。家族全員が無事なら黄色いタオルを掲げて「大丈夫!」と知らせることで、救助をする人の確認の手間を省き、救助が必要な人により早く発見できます。

避難行動要支援者個別計画

避難行動要支援者個別計画とは、要支援者の自宅に訪問し、相談しながら避難経路や支援する人を事前に決めたものです。個別計画に基づいた防災訓練を行うことで、要支援者に対する地域住民全体の理解と協力につながります。

結 ネット災害時モード

町内会活動を支援するアプリ「結ネット」には「災害時の安否確認」機能があります。町内会長が「災害時モード切替」をオンにすると災害時安否確認画面に切り替わり、プッシュ配信、地図連動、写真・音声・動画の添付など、スマホの機能を活用した情報の発信と共有ができます。また、住民の安否情報を地域で共有できるため、安否不明者の家の訪問確認を効率的に行うことができ、支援する人の負担軽減につながります。

INTERVIEW

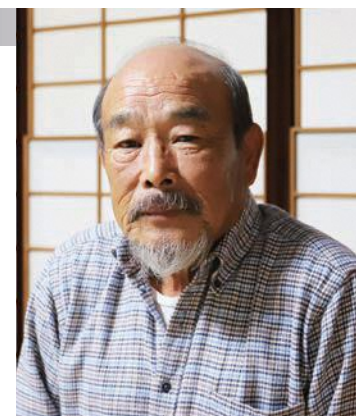
平成23年3月11日に起こった東日本大震災。被災地の様子をテレビで見ても立っても居られず、妻と一緒に宮城県南三陸町に向かいました。現地で被害と被災者の様子を目の当たりにし、妻の「これからは人のために尽くしたらどうか」という言葉で決心し、活動を始めました。

被災地での活動

がれきの撤去や支援物資の仕分けを行います。現地へはキャンピングカーで向かい、寝泊まりも車です。行政はどうしても主要な道路や河川の補修が優先になるので、重機を持参して現地向かい、中々手が回らない民家や集会所のがれきの撤去なども行っています。

活動のきっかけ

もし森本・富樫断層が震源の地震が起これば、野々市も被害は免れません。災害時には、まずは命を守る行動が最優先。避難の際は、最低でも水・着替え・毛布(防寒具)を持参しましょう。ほかの物資は自治体の備蓄や支援物資で賄えることもありませんが、この3つは不可欠です。また、近所の高齢者や支援が必要な人を日頃から把握しておくことも大切です。そして、災害現場を知る人が地域に居るか否かが災害後の初動に大きく影響するので、ぜひ多くの人に災害ボランティアを経験してほしいです。被災地の助けになるのはもちろん、その経験が自分の街を守る力になります。



災害ボランティア
田中 昭一さん
(本町四丁目)

東日本大震災を契機に活動をはじめ。以降、熊本地震や西日本豪雨など15カ所の被災地へ出向きボランティアを行う。